

令和四年度外国人留学生奨学金受賞者紹介

熊本大学大学院医学教育部

修士課程一年

BEGUMI MST MONIRA



新型コロナウイルス
スは、二〇一九年後
半に出現して以来、
自身のRNAゲノム

に多くの変異を蓄積し、進化し続けている。
実際に、ウイルス感染者由来のウイルスゲノム配列を解析してみると、シトシンからウラシルへの変異が多く観察される。この原因の一つとして、シトシン脱アミノ化酵素 APOBEC3 (A3) ファミリータンパク質の関与が考えられる。本研究では新型コロナウイルス複製におけるA3ファミリータンパク質の役割を明らかにするために、A3欠損細胞における新型コロナウイルスの複製動態を検証した。その結果、ウイルスを継代していくと、A3欠損細胞ではウイルス複製が徐々に減少することが観察された。したがって、細胞内のA3ファミリータンパク質は、新型コロナウイルスの複製に何らかの影響を与えていることが示唆された。最後に昨年私を奨学金給付者に選んで

くださり、多大なサポートを与えて下さったことに感謝申し上げます。

* * *

熊本大学大学院医学教育部

博士課程一年 王 浩林



この度は公益財団法人肥後医育振興会外国人留学生奨学金を賜りまして、拝謝

いたします。また、ご推薦いただきました消化器外科科学講座の馬場秀夫教授に厚く御礼申し上げます。

私は中国の医学部を卒業し、消化器外科の医師になる予定です。令和三年度十月から熊本大学大学院博士課程に入学し、消化器外科科学講座で日々研究を行っております。本学大学院にて、「食道癌と細菌の臨床関係」をテーマとした研究に取り込んでいます。研究に対する姿勢も勤勉であり、熱心に研究活動を行っております。

食道がんは発生率の七位、死亡率の六位に位置する。つまり、がんによる死亡十八件ごとに食道がんが一件含まれていることを意味する。食道がんは

非常に侵襲性の新生物であり、五年全生存期間は一五%〜二五%であり、全生存期間(0s)中央値はわずか十三ヶ月である。腫瘍微小環境の一部としての微生物相は、抗腫瘍免疫応答およびICIsに対する応答に重要な影響を与えることが示されている。

今回の受賞を励みに、より良い研究者になりたいという目標を達成し、早く医療に貢献できるよう、学業・研究に集中して取り組みたいと考えております。今後とも、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

* * *

熊本大学大学院医学教育部

修士課程二年 鐘 恒



私は中国からの留学生の鐘 恒と申します。今年度の肥後医育振興会の奨学金を賜り、誠にありがとうございます。選考委員会の先生方並びに、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

私現在には熊本大学医学教育部の微生物学講座に修士学生として、細胞内硫黄代謝に関連した細胞死メカニズムの研究を行っています。

硫黄代謝は、メチオニンとシステ

インの硫黄元素を中心とした代謝プロセスです。近年、システインが細胞内の活性酸素種に対する還元剤としてだけでなく、タンパク質中のシステイン残基のスルフヒドリル基が細胞代謝に関与できることが多数の研究によって示されています。このタンパク質調節効果は、炎症、アポトーシス、細胞増殖などの一連の重要な代謝プロセスに關与していることが証明されています。しかし、過剰な硫黄代謝がどのように細胞に影響を与え、硫黄代謝が細胞死にどのような役割を果たしているのかはまだ不明です。私は、硫黄代謝と細胞死の関係について、特にミトコンドリアとの関連から研究を進めています。

今回の受賞を励みに、今後も努力して硫黄代謝のメカニズムの理解を進め、医学の発展に貢献できるよう、微力を尽くします。最後になりましたが、ご推薦いただきました微生物学講座の澤智裕教授に感謝申し上げます。

